

続・ふるさと

伝染病予防に対する

医師たちの建白①

第44回

生涯学習課総合情報館推進係
☎028 (677) 2525

大正11年8月8日付下野新聞で芳賀郡の衛生環境の悪さについて指摘を受けた。伝染病が発生した場合、町村の負担で処理するとした伝染病予防法が守られておらず、患者負担になっている現状を問題視し、その原因を町村財政の貧困に求めた。芳賀郡は他郡市に比べて、伝染病患者の発生が多く、当局は少なからず苦心していたが、治療費は患者の負担とした。そのため、貧困者は予防も十分にできず、伝染病にかかっても患者負担では申し出にくい状況があった。そのため、家族による伝染病隠匿があり、流行をさらに拡大させる悪

循環となった。案の定、大正13年に祖母井村稲毛田で事件が起こった。伝染病が発生したが、祖母井村の内規では患者負担とされていたために病気は隠べいされ、患者は拡大し、消毒も手を打たれず、結果として2人の犠牲を出した。この状況下の大正14年1月、祖母井村の医師桜井平造・阿久津幾三・豊田実の3人は祖母井村の岩村周平村長に伝染病予防の完全実施を求める建白書を提出した。明治30年に施行された伝染病予防法によると衛生組合の組織化、予防委員の設置、伝染病患者の治療費負担、隔離病舎の建築は町村が

執行すべきにもかかわらず、祖母井村はすべての面で不十分であった。法施行の際、県に予算措置がとれないと請願し、事実上黙認してもらい、内規をつくり治療費の患者負担や流行時にしか置かない臨時隔離所に対処するとした。



▲豊田 実

編集後記

□現在、町で計画している光の道整備事業ですが、先日行った情報化に関するアンケートには、多数のご意見をいただき、改めてこの事業に対する町民の関心の高さを実感しています。担当職員として「行政がやるべきこと、民間ができること、町民と一緒に考えなければならぬこと」などを常に考えながら、皆さんにこの事業に関する情報をいち早くお伝えできるよう日々格闘中です。
□ところで「光の道」という言葉は町内では通じません。実はこれ、当時の担当職員が勝手に命名したものです。
■これからも光の道に関する皆さんのご意見や熱い思いをお寄せください。

(K)

■編集 芳賀町広報広聴委員会
☎028 (677) 6032 ✉kouhou@town.haga.tochigi.jp
■発行 芳賀町企画課
栃木県芳賀郡芳賀町大字祖母井1020番地
■芳賀町ホームページアドレス
http://www.town.haga.tochigi.jp

☎芳賀町の携帯サイトはコチラから➔



L=29cm
Picus awokera
(アオゲラというキツツキ)

緑っぽいキツツキで、アカゲラより大きく、キョッ・ビョーと鳴く。

後頭部とほおは赤く、雄は良く目立つ。顔と頸は灰色で、腰は黄色みが強く、腹部に黒い横斑があり、背中から翼は黄緑色である。

キツツキ類が垂直の樹木に留まり採餌する場合は、鋭い爪を持った足と尾羽の先で支える。くちばしは大工道具のノミの役目をはたし、コソコソと枯れた樹木に穴を空ける。木の中のセンチウヤカミキリムシの幼虫を採餌するので、マツクイムシによって枯れたアカマツ林にはキツツキ類が多い。舌の先が割れていて、人間の指先のような動きをして挟みこむ。この樹木に穴を空ける音をドラミングと呼ぶが、静かな森林でこの音は特徴的である。

井頭公園の鳥見亭の展示室には、アオゲラが旧上稲毛田小学校のヤマザクラに作った巣穴が展示されている。



この印刷物は、ESPAのゴールド基準に適合した地球環境にやさしい印刷方法で作成されています
ESPA：環境保護印刷推進協議会
http://www.e3pa.com